

1 日目  
第二部

# コア教育とC-PLATS

平成23年3月10日(木)  
於・シーサイドホテル舞子ザ神戸



山下 真知子 先生



坂本 理郎 先生

## ●山下—

はい、ご紹介あずかりました、私山下と坂本先生とでこのセッションを受け持たせていただきますけれども、お昼からずっと難いお話を聞いてまいりました。(まつまつつつと



## このセッションの予定

1. 報告「コア教育とC-PLATS」 16:45~16:52 (7分)
2. ワークショップ「OOまでに、これだけは！」 16:52 ~17:22 (30分)
3. マップ発表 17:22~17:42 (20分)

先生がたまに休憩もしたくなる、したいですよ、なのでじっと座っているということがどれだけ学生にとっても苦痛かというのがひしひしとわかるのですが、ここからは少しご報告させていただきます。コア教育専門委員会というところで私たちが得た情報とC-PLATS、コア教育とC-PLATSということの今日のお題なのですが、そこで得た情報のご報告。これは決定でもなにもございません。私たち一教員が得た専門委員会のみなさんでいろんなところから得た情報をC-PLATSはこんなふうにはコア教育ではやるのかなということを私たちが理解できた範囲で一度ご披露させていただく、ご紹介させていただくという主旨のものです。これが大体7分くらい。そのあと今日はワークショップをさせていただきたいと思って、先生がたにまた席を移動していただいたのですが、ワークショップはですね、1年生までにこれだけは、2年生までにこれだけはとか、よくありますよね、40までにこれだけはそういう感覚で先生がたお一人お一人の実感に伴って、学生たちにここまでは育てておいてほしいよねっていうのがありだと思えるですね。私も3年生のゼミをもって、えっパワーポイントのつくり方も知らないの、みたいなところはございました。そういう具体的なところでお書き頂き、これはまたあとで坂本先生のほうから説明いただきます。大体30分ほど活動していただいて、そして最後に各グループで、私たちのグループはこれで発表しますということで、マップ発表という形をとらせていただきたいと思います。この活動は今日の後の分科会にも活用されることだろうと思いますけれど、まず第一番目のご報告からさせていただきますと思います。坂本先生お願いします。

## ●坂本—

はい、山下先生ありがとうございます。みなさまお疲れの



コア教育の中で何をすればいいのだろう (1年次)

「使える」から「行動する」ための応用力  
「わかる」から「使う」ための応用力  
「知る」から「わかる」ための基礎力

キャリアデザイン・1・2  
基礎力・1・2  
応用力・1・2

知識と自分へ「知る」ための基礎力

- ◆自分の大学生活をデザインをするための基礎スキル
- ◆大学生としての自分の今の課題を知る  
Ex1)キャリア形成の基礎(キャリア形成のしくみ・キャリアから学ぶ)  
Ex2)健康習慣/生活指導(マナー)
- ◆「知る」活動の基礎力
  - ・読み・書き・話す・聞く
  - ・資料・情報集め・活用・使い切
  - ・ITリテラシー
  - ・英語スキル

コア教育の中で何をすればいいのだろう (2年次)

「使える」から「行動する」ための応用力  
「わかる」から「使う」ための応用力  
「知る」から「わかる」ための基礎力

キャリアデザイン・3・4  
基礎力・3・4  
応用力・3・4

知識と自分へ「知る」ための基礎力

◆「知る」活動の基礎力

- ◆大学生としての自分の今の課題を解決する  
キャリア形成の方向づけ
  - ・地域社会、産業、職業などについての調査
  - ・希望職種にどう向き合うか
  - ・ゼミナール、メジャーの選択指導 など

コア教育の中で何をすればいいのだろう (3年次)

「使える」から「行動する」ための応用力  
「わかる」から「使う」ための応用力  
「知る」から「わかる」ための基礎力

キャリアデザイン・5・6  
基礎力・5・6  
応用力・5・6

知識と自分へ「知る」ための基礎力

◆「知る」活動の基礎力

- ◆自分で創る専門性
  - ・専門科目での学びを通じて、深める。
- ◆興味・関心・意欲・態度の集大成
  - ・卒業・就職・その他の活動(キャリアイベント)などを実践し深める。
- ◆キャリア形成の方向づけ

コア教育の中で何をすればいいのだろう (4年次)

「使える」から「行動する」ための応用力  
「わかる」から「使う」ための応用力  
「知る」から「わかる」ための基礎力

キャリアデザイン・7・8  
基礎力・7・8  
応用力・7・8

知識と自分へ「知る」ための基礎力

◆「知る」活動の基礎力

- ◆自分で創る専門性
  - ・興味・関心・意欲・態度の集大成
- ◆卒業後の進路決定(キャリア形成の方向づけ)

互的に2つあってこそリベラルアーツ型の専門性と社会人基礎力C-PLATSが内面についてくると思います。それがひいては一般から認められる就業力と言えるのではないのでしょうか。

年次ごとの重点目標というのを少し説明いたしますと、1,2年次では知るための基礎力と、わかるための基礎力を身に付ける。知るための基礎力とは知識や情報を集める力であり、わかるための基礎力とは自分で得た情報を頭のなかで整理理解する力です。3年次になりますと知ってるだけでなく、芦原先生の説明にもありましたが知ってるだけではだめで使えるということが大事でそのための基礎力を3年次では重点的に身に付ける。4年次ではそれを使いこなす、行動するための力に変えていこうということではないでしょうか。こうやって結果的に本学の卒業生がリベラルアーツ型とC-PLATSの専門性を兼ね備えてほしい。ここでちょっと補足ですが、あくまでこのキーワード、4段階の「知る」、「わかる」、「使う」、「使いこなす」というキーワードは重点目標であって、1年の段階でも使ったわかったりというのはあるでしょうし、3年の段階で知るといふことが必要になってくることもあるわけで、あくまで重点的という意味あいでご理解いただければと思います。

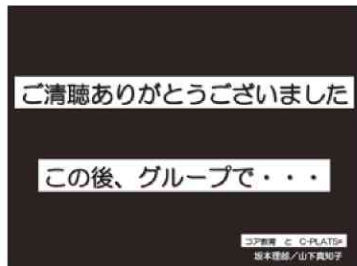
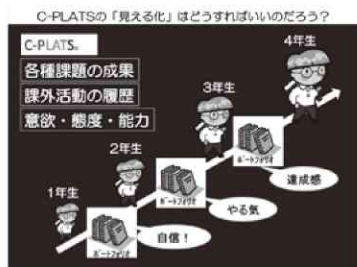
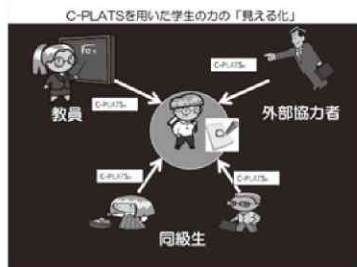
続きまして今までのように専門科目とコア教育が相互に補完してあってC-PLATSを高めていくのということを確認したうえで、とくにコア教育に絞ってお話をさせていただきたいと思います。コア教育ということですが、もう一度あらためて確認ですが、1年次では新しい科目名でキャリアデザイン1,2、そして英語表現1,2、情報活用1,2、そして2年次にはキャリアデザイン3,4、そしてゼミナール300、そして4年次は卒業研究。これだけの科目がすべての学生が受ける必修科目となっております。

では1年次では何をすべきなのかということなのですが、これは今からお話するのはコア教育委員会で各年次のコーディネーターの先生で現在検討しているアイデアなのでこれで完璧というわけではございません。これからいろいろな分科会や今やっているグループワークでお考えをいただきたいということで、たたき台としてご理解いただければと思います。一つ一つを説明していくと長くなります。たとえば、1年次は大学生としての基本的なスキルですとか自分の今の課題を探ることであったり、知るという活動の基礎力で、読み、書く、話す、聞くなんかを身に付けてもらいたい。2年次ではわかるための基礎力と行動する訓練という

ことで、たとえば文献、提案調査活動がよいのではないかな。それからキャリア形成の方向付けとしていろんな調査や模擬的な技術体験がよいのではないかな。それから3年次のゼミナールですけれども、わかるという段階から使うというレベルまできて、自分で作る専門性ですね、いろんな科目を学んでいくかもしれないけれど、その学びをつないで深めていくこと、そしていろんな興味や関心を伝える集大成。学んだ知識を含めて卒業制作や卒業論文、4年間につながるようなテーマを見つけていく。そしていよいよ就職活動が始まるので、キャリア形成の方向付け。4年次ですけれども自分で作る専門性ということで、卒論、卒業制作という形で一つのまとめとして集大成していくということであり、キャリア形成についてはいよいよいずれかの道に進むということを決するというのが4年次ではないでしょうか。

話しは変わりますが、4年間を通じて私たちの狙い通り学生たちは成長したのかどうかということを確認するというのがわれわれのこれから目標としていくところで、蘆原先生もご説明してくださったことですが、もうちょっとわかりやすく図式化したものがこれです、真ん中にある私を茶髪にしたような子が学生だと思ってください。その学生を教員、同級生、外部協力者が同じC-PLATSという枠組みを用いて評価をすると、客観的な評価をする。学生本人も自己評価をしていますので、そことの一致点や間違いを確認することで、自分自身への自己理解を深めていくということにつながるのではないのでしょうか。それは1年次にやったことをポートフォリオと、これは本を書いています但实际上にはシステムの中でデータが蓄積されていますけれども、1年2年3年4年という形でどんどんポートフォリオを蓄積していくことで自信、やる気、達成感というものにつなげていくことを目指している。

最後にもう一度強調しておきたいことは、コア教育で身につけるC-PLATSの力というのは、コア教育だけで育成されるものではなく、専門科目でも育成され発揮される、課外活動なども含まれるかもしれません。それから、それぞれの学生の身の丈に合ったやり方がよくてC-PLATSを導入することによって金太郎飴的な学生を育てるわけではない。それぞれのやり方でC-PLATSという共通の枠組みを用いてそれぞれに個性を発揮してもらうことを目指したいというふうに考えています。時間は計りませんでしたが、私の話しはこのくらいにしたいと思います。ご静聴ありがとうございました。



## 『見える化』ブレンストリーミング

- ・ 4年間のコア教育に焦点を絞って、C-PLATSを伸ばすために、具体的なメニューのアイデアを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
- ・ 前後の座席で6人ずつのグループになってください。
- ・ お一人ずつに、ポストイットを配りますので、次の項目を記入してください。

## 『見える化』ブレンストリーミング

\* メソッド集「KJ法」Analysis 22 参照

## 1. キーワード収集

- ① 先生方がご担当するコア科目を選んでください。(複数の場合はいずれか) 選んだコア科目の年次を記入してください。
- ② そこで担当する学生に「授業が始まるまでにこれだけは!」といった事につけておいて欲しい力を、分かりやすく短いキーワードで記入してください。
- ③ それを育成するために、コア教育での具体的なメニューのアイデアをもつて記入してください。(抽象的な言葉ではなく具体的にわかりやすく。)

## 2. グループング

- ④ もし分かれば、それがC-PLATSのどれに該当するかを記入してください。

## 『見える化』ブレンストリーミング

- ・ 職員の方は、それぞれご自身の職務の立場で、考えてみてください。
- ・ ③の「どう育成するか」については、どのように学生と関わるのが良いのか、あるいはどのような制度や支援を構築するべきか、といった視点でご記入ください。

## 『見える化』ブレンストリーミング

## 3. 図解化

- ・ カードに書かれた内容を、年次ごとに分けて白い用紙に貼りつけて、各グループの「アイデアマップ」を作ってください。(以上30分)

## 4. 言葉にして発表(文書化)

- ・ グループのどなたかに発表していただきます。(20分)
  - 時間が許す限り全グループに。
  - 一つの年次に絞ってまとめてください。(1分)
- ・ 「アイデアマップ」は、夕食の会席に貼り出します。夜の分科会の前にご覧いただき、その際の参考にしてください。

## ●山下—

坂本先生ありがとうございます。

先ほど申し上げていたワークショップを、ミニミニワークショップなのですができる限り時間をたっぷりとらせていただこうとしましたのでお付き合いくださいませ。これについて坂本先生からご説明いただきます。

## ●坂本—

私の今の報告、高村先生、蘆原先生のご報告も踏まえてお答えさせていただくと思うのですが、この時間はコア教育に焦点を絞っていただいて、C-PLATSを伸ばすためにはどんな具体的なメニューがあるのかなということで、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

みなさんのお手元の資料に番号が振ってあったのは、グループになっていただくということで、ひょっとしたらところどころ席が空いている場合、4.5人の場合もあるかもしれませんが、それはそれでやっていただければなと。今から、山下先生と川口先生と、何人かご協力いただける先生にお願いしたいのですが、ポストイット、それを貼る大きな紙ですね。それを配っていただきますので受け取ってください。それでこのへん6人グループなんやなと確認しながらお願いします。

では大体渡りましたでしょうか。まずですね、今日お配りされたメソッド集、OCDのKJ法(Analysis-22)を参照してこのように進めたいと思います。KJ法の第一段階キーワード収集ということで、まず、職員の方はあとで説明しますので、教員の先生がたが来年度担当するコア科目、僕はあれとあれがあるな、私はこれとこれがあるなというのをイメージしていただいて、そのどの科目でも結構です。何か一つイメージしてください。ゼミナールでいことか、基礎演習でいことか、キャリアデザインの1.2でいこか。イメージしていただけたでしょうか。複数ですね3つ担当するぞとか2つ担当するぞという先生がた、どれか選んでいただければけっこうです。

選んでいただきましたらそこで担当する学生ですね、受け入れる学生、自分のクラスに属する学生に、4月の授業が始まるまでにこれだけは身に付けておいてほしいなという力をわかりやすい短いキーワードで考えていただきたいと思います。身についておいてほしい力というのはたぶんできていないことが多いかもしれませんが、今までのご経験のなかで3年のゼミに属するまでにはこれくらいのご経験のなかでというものです。いくつか、できれば1個でもかまいませんが考えてください、3番目はそれを育成

するためにコア教育での具体的なメニューは何かという  
ことを、これも具体的にわかりやすく書いていただきたいな  
と思っています。たとえばですがこんなふうを書いてい  
ただければいいなと思っておりまして、私は来年1年次のキャ  
リアデザイン1を担当するのですが、入ってくる、この場合新  
入生になるかもしれませんが、課題について何のためにそ  
れをするのかわかる力を身に付けておいてほしいなど。  
目的も意図も理解されないままに、機械のようにやれと言わ  
れてやっていますというのではなくて、なんでもやるとこれわ  
かってほしいということがもしあるとすれば実際1年  
生のときは時間がないのでやれることは少ないかもしれま  
せんが、たとえばキックオフミーティングではこんなことを  
やっておいてほしいな、PBL型で何かできないかな、ここ  
では簡単にしか書いていませんが、もう少し具体的なイメ  
ージがあればそれも書いていただいて、④のところでコミュニ  
ケーションと書いているのはもしわかればでけっこうです。も  
しできればその④のところで書いた力というのは、  
C-PLATS的でいうとコミュニケーションのところちゃうかと、  
この冊子をちらちら見ながらでけっこうですので、まだ正確  
な理解ができていなくてもけっこうです。私が思うにこれは  
Cかな、Dかなというような感じで書いていただけたらなと。

#### ●山下—

坂本先生、今紙をお配りしているときに、次からのこと  
で、それとも今までの経験でいいのですかというご質問  
がありました。ご自分の実感をお書きいただくということが  
今回のこのワークショップの狙いです。1年生の今データが  
出たのですが、逆にいうと1年生が入ってくるまでにこれだ  
けはということは、1年生のコア教育のなかでやっていかな  
きゃいけないことの中のプログラムの一つやアイデアにもな  
りますので、ぜひそのあたりのことを、コア教育をお持ちの  
先生はコア教育の中でイメージなさっていただいて、コア  
教育をお持ちでない先生はご自分の専門の100、200、300  
どれでもけっこうです。で年次を書いていただいて、これ  
だけはわかっておいてほしいなという部分、これだけは身に  
付けておいてほしいなという部分を実感込めてお書きいた  
だければと思います。

#### ●坂本—

職員の方の説明をちょっとさせてください。職員の方は  
授業もなにもないと思うのですが、それぞれご自身の職務  
の立場で、少し難しいかもしれませんが、学生課なら学生課、  
教務課なら教務課、キャリアサポート室ならキャリアサポート

ポスト・イット 記入例

何年次での？

①1年次

どんな力？

②課題について「何のためにするのか」が分  
かる力。

③PBL(キック・オフ・ミーティング)

その育成には？

④Communication

該当するコンピテンシーは？

ポスト・イット 記入例

何年次での？

①2年次

どんな力？

②課題を理解し、自ら進んで動く力。

③PBL

その育成には？

該当するコンピテンシーは？

④Action Teamwork

ポスト・イット 記入例

何年次での？

①3年次

どんな力？

②パワーポイントの作成には困らないスキル  
を持っていること。

③2年生までに、スライド10枚分程度の発表  
する機会を多く持て欲しい。

④Planning Presentation

その育成には？

該当するコンピテンシーは？

ポスト・イット 記入例

何年次での？

①4年次

どんな力？

②情報の集め方に習熟している。

③図書館の活用や、文献検索が必要な課題  
レポートを何度も課す。

その育成には？

④Analysis Logical-thinking

該当するコンピテンシーは？





室でちょっとそのへん考えていただければと思うのです。どう育成するかについては、これも教室ではできないかもしれませんが、職員として学生とどうかわかるのがよいか、あるいは学校全体として支援ということが、マネジメント的な立場から考えていこうじゃないかということで書いていただければいいのかなと思います。

#### ●山下—

職員の方々はたとえば3年生にもなってまだこんなこと聞きにくるのかとか、そういうことおありだと思うのですね、親切にお答えいただいているのに、えっ君まだそんな知らんのかあると思うのです。だから最低限教務のところにくる学生は、いや、2年生までにはこれだけ理解しておいてほしいなみたいなもののご実感をお書きいただく。学生課も同じですね。3年になってもまだ人の目を見て話しが聞けないのかということもあるかもしれません。だけれど先ほど高村先生のお話にもありましたように、態度、意欲、つまり能力評価ですので、C-PLATSというのは。そのあたりのこともお書きいただければなと思います。

#### ●坂本—

ここまでやりかたのご質問でございますか。

#### ●山下—

はい、仲野先生。

#### ●仲野先生—

ポストイットは1つだけなのですか。

#### ●山下—

いくつも書けるのでどうぞ。あまりにもご負担が大きいと思ったので一つにしました。ポストイットはたくさんありますので、ただしルールですが、このポストイットのなかには一つの項目しか書かないでください。2つのことを一緒に書かないでください。

#### ●井澤先生—

はい、3番なのですが、それまでに、たとえば3年のゼミナールだったらたとえば2年次までにどういう授業が有効かということですか。

#### ●山下—

はいそうです。

#### ●坂本—

4番のC-PLATSに何が当てはまるかというのはもし難しければ空欄にしていたいただいてもけっこうですし、2つ3つに複数に該当するなということならそれは2つでも3つでも書いていただければと思います。で私たちが考えた3年次ですけれども、引き続き前に出してみます。たとえばパワーポイントの作成には困らないということ。

#### ●山下—

これは私の実感です。パワーポイントの作成には困らないスキルをもっておいまして。1年生のときにどんなパソコン習ってきたのとかよく聞きます。スライド10枚程度の発表をする機会を多く持ってもらえればいいのかと、3年生までということですね。では4年生をお願いします。

#### ●坂本—

情報の集め方についてはほんと何でもできると。

#### ●山下—

これも私の実感です。情報の集め方をウィキペディアしか知らない学生ばかりで非常に困りまして。今回は図書館の先生がご協力いただきまして図書館のコラボ指導をさせていただきましたので書かせていただきました。そのの該当するコンピテンシーとしましてアナリシス、ロジカルシンキングということなのかなという感じです。まだ私もよくわかっていません。

#### ●坂本—

書きながらでまだけっこうなのですが、次何をしていたかということの前に示しております。今から、各グループに白い大きなポストイットをお配りしますので、それに出てきた内容をグループで共有して、べたべたと貼りつけていただきたいと思います。貼りつけ方なのですが、ランダムではなくて年次ごとにグルーピングしていただいて、ひょっとしたら全員が2年次のことについて書いてあったかということがあるかもしれませんが、うまくばらけていたら、これ1年のグループ、これ2年のグループ、これ3年のグループという形で貼っていただきます。時間の許す限りどこかのグループのどなたかにしゃべっていただこうと思います。発表の際

は全部しゃべっていただくと時間がかかるので、たとえば1本にしぼってをお願いをしたいと思います。

今貼りだしていただいたエリアマップは夕食の会場に貼りだそうと思っております、みなさま各分科会に配置が決まっているかと思うので、ごはんを食べた後に、何か参考になるおもしろい考え方がないかなと回覧していただけたらと思います。したがってポストイットは、人が読める字で書いていただけたらたいへんありがたいです。イメージとして今お配りしている紙はこんな感じです。1、2、3、4こんな感じでグルーピングして貼っていただいて、真ん中のブルーのところにもこの4つを俯瞰的に見たときに一番強調したい年次はこれよね、ともしグループで共通見解ができそうなら真ん中にキーワードを書いていただけたらと思います。

#### 《舞台上にカードを貼り出す》

#### ●坂本—

みなさんありがとうございます。短時間にもかかわらず。おかげさまでたくさんの意見が出てきました。ちょっと見にくいかもしれませんが。前の方の席の方はわかるかもしれませんが、傾向としては1年生のところにたくさんアイデアが出ているのではないかと、野波先生も喜んでくれているのではないかと思います。少ないのは3,4年でしょか。どこかのグループにご発表いただこうと思います。

#### ●山下—

では1年生が一番多く貼られていたところ。ここ頑張って作ってくださってますね。今福先生のところ、お願いします。

#### ●今福先生—

順番がほかとは違うのですよ。基本はやっぱり1やと。2,3で非常に育って、4で土台の最後を築きたい。こんな順番な名なのですが。1回生のときはまずあいさつとか自分で掲示板を見るときか。自分でアクションをするということ、学校のシステムにまず慣れて欲しいので、何かをしてもらって何かを言うのではなく、自分から掲示板を見る、自分から質問をする、カウンターの前でポーッと立っておいてほしいとかね。そういう基本的なコミュニケーションのところをまずしてほしいというのが1年なのですよ。ついでに言うと、2年3年でそれを積み上げていって4年生のときは問題解決能力とかそういうところを全部、いわゆる社会人基礎力を集大成していくような流れを2,3で積み上げてほしい。うちのポイントは真ん中なのですが、すべての学年でヘルス、健康と早寝早起きだけはできる人間になってほしい。

#### ●山下—

C-PLATSにHが入ったみたいですね。次に時間が押しているけれどもいろんな方に少しでも出ていただきたいのですが、村瀬先生と真ん中にいらっしゃるのですが出られますか。

#### ●村瀬先生—

出られません。

#### ●山下—

(笑)けんもほろろに断られてしまいましたけれど、小川先生ちょっとお願いします。小川先生さきからずっと疲れた、疲れたと言っていたので、ちょっとこのへんでキリッとしてももらいましょう。

#### ●小川先生—

貼ったのは小森さんなので私今初めて見るのですが、書いたのを読みますと、読み書きその力は付けておいてほしい、そんなレベルです。簡単な計算とか。すべて同じメンテナンズに関することですね。私が書かなかったのはなぜかという、1年生にと書くのだったら高校の先生に見せたいなという意味なので、せめて1年生の秋までには、秋学期までと言われたらまだ書く気はしたのです。私自身は1年間フレッシュマンセミナーをやりましたので、フレッシュマンセミナーを担当して一番感じたことは、意欲がない、気力がないということです。20人のうち半分は何かやりましようと言っても寝ています。それを肩叩いて順番に起こしていてもまだ寝ている。ですからせめて2年になるまでには、そういうことがないような力をつけてほしい。でも思ったのは1年生のときに意欲的な子がいたら気力がある子がいたら1年生のフレッシュマンセミナーでやっている内容はあまりにもつまらない。もうこんなの小学生の総合学習に入る、ホームルームじゃなかとっています。というのを書きたかったのですが。

#### ●山下—

すみません、進捗が悪くて。筧先生お願いします。

#### ●筧先生—

1年生として書いたのは、まず1年の今度もまたキャリアデザインに配属されますけれども、フレッシュマンと日本語表現が合体した科目ということで、身に付けておいてほしい能力としては基本的マナーと基本的日本語力と、そのように書きました。あまりにも先ほどから言われていますけれども基本的マナー、僕なんかは学生にため口をきくのは良くないと、僕だけではなく他の先生がたにも事務の人にも基本的な敬語を使ってしゃべりなさいということをしつこく言ったのですが、僕はよくため口はダメというふうに言って学生



の記憶に残らせようと思って言っているのですが、言ってもその日本語が通じない。言われたらわかっている子は最初からきちとしています。最初からため口きいている子は結局1年経ってもため口がなおらなかったというケースが多いですね。あと出ているのはあいさつができる、基本的のマナー。やはりあいさつ、時間厳守、タバコのマナー。英語表現を意識したことだと思いますが英和辞典を早く正確にひける力、社会常識、海外への興味。

●坂本—

ありがとうございます。

もう少し時間がありますので、具柄先生お願いしてよろしいでしょうか。

●見柄先生—

キーワードで言いますと1年生はだいたいグループで一緒だと思いますが、やはりマナーです。ただ個人的にマナーとモラルとが混同しているなど、授業ではわりとモラルということを中心にして見ていくようにしているのですが、今のグループではマナーという話が出ました。2年生で漢字や文字を読む力というのがキーワードです。3年生で具体的にはいろいろあるのですが、テーマを検索していったり情報を検索していくという就職も専門的な部分も含めまして、検索というのがキーワードになります。4年制でその情報収集を得たうえでの分析というのがわれわれのグループの結果です。以上です。

●山下—

ありがとうございます。森本課長お願いします。

●森本課長—

すみません、私貼っただけで内容全然見てないのですが。私が貼ったのを中心に説明させていただきます。1年生とはあまり接していませんので2年生からということになります。2年次は自分で学内の情報を収集する力を身に付けていただきたいということで、現場でという話になりますけれど、休講掲示とか教室の変更とか、いろんな掲示が今は掲示板とかユニバーサルパスポートとかあと確認くんとかいろんな情報を収集するツールがあるのですが、それを見ずに教務課のほうに今日授業教室行ったのですが誰もいないのですとかいうことで来る学生がかなり多いのですね。来るとこちらはちょっと待ってねと言って調べて今日は休講ですねというふうについ伝えてしまいますのですが、それはやめて、自分で掲示板を見に行きなさいということで、情報収集力を身に付けてもらうということを書かせていただきました。あ

とは先ほどから出ております教職員と学生との接し方ですね。マナーとか話し方とか。そのへんを気を付けてもらってこちらも学生を大人として扱うということを心がけていけたらと思います。最後にここには貼っていませんが、4年生の秋学期までにはGPAを1.5以上にしてもらいたいです。

●山下—

じゃあ最後に山田先生お願いします。

●山田先生—

私見るの今初めてなのですが、1年生は授業を聞く態度とか読む力、書く力、社会を知ってもらう、こんな仕事があるとか。同じようなことばかりですね。

●山下—

山田先生のところも1年生の最低限してほしいなというところの内容ですね。ありがとうございます。

●村瀬先生—

1年生ですね。理解できたこととわからなかったことをはっきりさせておきましょうとか、2年生のときは他者が話しているときは聞くという態度。その方法として家庭でのしつけ。そのほか大学の教育システムが説明できるようにとかでしようか。

●山下—

ありがとうございます。これは夕食のときに壁にずっと貼っておきますので。ほかの先生がたの実感もあわせてごらんください。では坂本先生まとめてください。

●坂本—

むちゃぶりがきまじけれども(笑)。ひとことと言うとみなさん、職員の方も先生がたもコミュニケーション力。話すとか出すとかやり取りする力ですね。理解することも含めたコミュニケーション力というところにけっこう問題意識があるのではないかなと。

●山下—

ありがとうございます。

■二日目／報告・山下真知子先生

おはようございます。昨日はありがとうございました。お疲れのところずいぶんエネルギーを使っていたきまして。昨日本部に預けておいた先生方に昨日書いていただいたカードを今朝もう一度学年別に分け変えました。どの学年の要望が多いのか、傾向はないのかと思いつながら見ていたら、少し傾向が見えてきたので、これは是非ご報告をと

思います。まだぱっくりとしか分類できていませんが1年生だけは先生方が書いてくださったメニューのアイデアが一番多く72枚ありました。もっと厳密にきちっと数えてまた後ほど次回の教授会のときにでも資料にしてきちんとグラフにしてお渡しできればと思っています。次に多かったのが3年生です。昨日コピーして学年別に分けたときに、3年生が多いこともわかったのですが、2、4年生は少なかった。それぞれの学年にとってもおもしろい傾向が見えてきました。

まず1年生はコミュニケーション・C-PLATSのうちの、コミュニケーションの部分の特記された先生が多かったという結果が出ました。ちなみにコミュニケーションという項目で書かれた先生は20名。それからソーシャルレスポンスビリティ+マナーはとても多かったのですが、あとチームワークは2番目に多く9名。アナリシスはちなみに1名です。プレゼンも3名ほどです。C-PLATSは各学年でまんべんなくやるということもありますが、それ以外のところはC-PLATS外の、マナーだとかあいさつだとか基本的生活習慣だとか、そんなことを書かれているという顕著な傾向が1年生を書かれた先生方から出てきました。次に2年生はロジカルシン

キングとアナリシスというのが見えてきました。全体の枚数は少ないのですが、そこで見えてきたのがアクション、ロジカルシンキング、アナリシス。絶対数は少ないのですが、これが大体3、3、3ぐらいの感じでした。3年生になるとやっとC-PLATS。昨日からずっと勉強しているC-PLATSがまんべんなく、先生方のメニューのアイデアとして出て来ています。これが4年生になると3年生の続きぐらいの感じなのですが、全体のアイデア自体も少ないのではばらばらしていますが、大きな特徴は1年生にはC-PLATSは出てこない。コミュニケーション、一部チームワーク。あとはマナー、生活習慣。2年生はやっとアナリシス。そしてロジカルシンキングが出てくる。3年生になってようやくC-PLATSがまんべんなく出てくるという形です。うちの学生たちの状況というか、その傾向というか、それに見合った各学年のC-PLATSのうちのどれを一番重点的に育成するかということのヒントにもなるかも知れません。これはもう一度精査してみたいと思います。そのおりにまたご報告させていただきたいと思いますが、簡単に先生方にご報告させていただきました。ありがとうございました。

